

第9回 厚木看護専門学校 学校関係者評価委員会 議事録

日時：2024年5月31日(金)

15:55～16:55

場所：厚木看護専門学校 会議室

1 出席者（6人）

- (1) 榊 恵子 （神奈川県立保健福祉大学 看護学科長）
- (2) 風間 徹 （厚木市松枝地区 自治会長）
- (3) 佐久間 謙一 （厚木看護専門学校 同窓会長【愛光病院 副看護局長】）
- (4) 黒木 祐子 （厚木看護専門学校3年生 保護者）
- (5) 丸田 真織 （厚木看護専門学校2年生 学生自治会長）
- (6) 小林 優貴奈 （厚木看護専門学校1年生 学生自治会副会長）

2 欠席者（4人）

- (1) 渡辺 美和 （神奈川県リハビリテーション病院 副院長兼看護部長）
- (2) 郡山 美恵子 （厚木市立病院 副院長兼看護部長）
- (3) 佐藤 裕子 （愛光病院 教育担当看護科長）
- (4) 益井 明子 （講師）

3 厚木看護専門学校教職員出席者（5人）

学校長 五十嵐一美、 副学校長 田原裕子、 看護学科長 島田真由美、
総務課長 茂木憲明、 看護学科技幹 中原真弓

4 議題

- (1) 報告
 - ア 自己点検・自己評価 2023年度の結果と取り組み
 - イ 2023年度 明日の厚木看護専門学校を考える会 アンケート結果
 - ウ 2024年4月新入学生へのアンケート結果
 - エ ダブルスクール生の状況及び2024年度から開始した self-learning-day の取り組み
- (2) 報告に関する質疑応答、意見交換
- (3) 配付資料
 - ア 2025年度入学生用 スクールガイダンス
 - イ 2023年度 自己点検・自己評価報告書
 - ウ 2023年度 明日の厚木看護専門学校を考えるアンケート結果
 - エ 2024年4月新入学生へのアンケート結果
 - オ 委員会名簿
 - カ 委員会規程
 - キ 座席表

5 内容等

【進行：田原副学校長】

配付資料の確認、委員紹介を行った。

【五十嵐学校長挨拶】

委員会の規約を改定した。これまで12名の委員構成であったが、会議時間1時間の制約の中では人数も多く、活発な意見に向けて委員会規程の第4条に定める「関連事業等関係者」や「保護者」などの同属の委員を1名ずつ減とし、10名とした。「学生」委員はこれまでどおり2名のまま継続している。本日は10名の委員で開催予定であったが、4名の欠席がでている。開催日が5月末日と年度早期の末日とした影響があったと考えており、今後の開催に向けては開催日の見直しを検討する。

今年3月卒業生は82人で、国試合格率は95.1%であった。全国での合格率が87.8%、約6万3千人受験し約5万5千人合格で不合格者は8千人となった。看護師の需給が厳しいなか8千人の不合格者を出した厚生労働書の、一定水準を守るとする覚悟を感じている。

【中原技幹】

配付資料に基づき、報告事項のア、イ、ウを説明した。

【島田学科長】

報告事項のエを口頭により報告した。

ダブルスクール制度とは、キャリアアップへの道を開くため、放送大学と連携した教養学士取得だけでなく、看護学士取得を目標とした制度である。2023年度入学生より希望者を対象としてスタートさせ、今年で2年目となった。現在2年生6名、1年生15名が在籍している。2年生が1年生のチューターとなり積極的に支援に取り組んでいる。

6月の通信指導提出は全員無事に行え、良いスタートがきれた。当校卒業後の支援も継続していく予定である。

今年度から開始したself-learning-dayの取り組みについて説明する。

主に1、2年生を対象に自律的に自学自習できる時間を増やしたいというねらいから、登校日を月曜日から木曜日の週4日とし、金曜日は終日、学生が自由に学習に活用する日として5月頃から開始している。自宅で学習したい学生は自宅で、学校で演習や学習を行いたい学生は登校し、未来のなりたい自分に向かって、学びたいことを自分で計画して取り組んでいる。今のところ学校に来ている学生の多くは演習や講義の学習、登校しない学生はインターンシップなどに利用している。

やりたいことがあっても、頭の中で思っているだけでは形にならない。実際にやってみる力が必要である。やり方を考え、試行錯誤しながら、形にしていく。形にしていく力「学習リテラシー」を培える、勉強するのに必要な基本的能力を伸ばしていける時間や機会にしてもらいたいと考えている。

【田原副学校長】

4の(2)報告に関する質疑応答、意見交換に入る前に、本日欠席されている佐藤委員と益井委員から事前意見を頂いた内容について回答申し上げる。

【佐藤委員意見①】

2023年度自己点検・自己評価報告書「臨地実習指導者と教員の協働体制を整えているか」について、指導時の学生の反応や指導者との調整の記録が不足していることもあったという課題があるが、臨地側に臨むことなどがあれば教えていただけないか、より良い実習環境の提供につなげていきたいと考える。

【島田学科長】

臨地実習指導者と教員との連携は図れている。その連携を記録する内容が不足しているという意味であり、指導者側に課題はないと考えている。コロナ禍においても指導者には努力していただいております、教員が指導者に伝えるべきところを伝えられている。

【丸田委員】

臨地での実習中は、自分が覚えることで手一杯なことは多いものの、教員と実習先指導者との間で連携が取れていないと感じたことはなかった。

【黒木委員】

娘からも問題があるとは聞いていない。教員が実習先の看護師であるように感じているようだ。

【風間委員】

この自己評価は教職員全員が満点である4点を入れて4.0点となる。素人目線で恐縮だが、「意思疎通」が満点となることは大変なことだ。

【佐久間委員】

臨地実習先と学校教員との連携が現状3.9点。これを4.0点にすることは難しい。

【五十嵐学校長】

学生には日頃より、実践したことは記録に残すことを指導している。教育の実践の振り返りにも重要なことであり、私達の指導の連携を記録に残すことが教育の実践力を高めることにつながる。記録に不足がないよう取り組んでいく。

【佐藤委員意見②】

2023年度明日の厚木看護専門学校を考えるアンケートの質問「⑧学習環境としての施設や設備等について満足していますか」で他の質問項目よりも「そう思わない」の回答があるが具体的にどのような部分でそのように感じているのか。

また教職員の自己点検自己評価における類似項目では満点の4.0点となっており、その差異の理由を知りたい。私は実習受入や厚木看護で外部講師をしていることから、関連しているか気にしている。

【五十嵐学校長】

外部講師の授業や実習施設の環境のことは関連していないと捉えている。二つ理由があると思う。

一つは情報科学室に配備しているパソコンのスペックが低すぎるため使いづらいことである。これは2024年度中に更新予定である。

もう一つは冷房についてと捉えている。環境省の推奨する室温28度を目途に冷房は26度設定をしている。さらに国からは使用電力を抑える取り組みを指導されており、必要時間帯以外の省電力につとめている。中央で温度管理を行い学生の要請に対し総務課員が教室へ足を運び現場を確認して対応している。26度設定を守り、国の施策も守るという点で教職員は4点満点となる。

一方学生は24度～26度で日常生活を送ってきており、若くて基礎代謝の高い学生は耐えられないだろう。さらに技術演習中は体を動かすことから暑いと思う。このため実習室は26度室温となるよう設定し、着座で行う授業は国の推奨を守り室温28度に設定している。国の資源を守ることも重要と思う。学生はself-learning-dayを始めたことで金曜日に登校せずともよくなる。

榊委員の学校ではいかがか。

【榊委員】

暑い。温度設定を下げても冷房が効かない。熱中症に気を付けないといけない状況だ。

【益井委員意見①】

2023年度明日の厚木看護専門学校を考えるアンケートの質問「⑧学習環境としての施設や設備等について満足していますか」で他の質問項目よりも「そう思わない」の回答がある。当方の担当科目において、学校が用意してくれるICTを上手く活用できていないのではと懸念している。電子黒板等の効果的な活用方法についてご教示いただくことができればと思う。

【丸田委員】

電子黒板は導入して月日が浅く当校の先生も学生もまだ使いこなせていない。このため外部講師のフォローも十分行えていない。学生自治会に新しく創設したICT推進委員会で講師をサポートできるよう取り組んでいきたい。

【田原副学校長】

当校教員も電子黒板の活用、スキルアップに取り組む。

【益井委員意見②】

2023年度末の講師会議で、当方担当科目（論理的思考と表現）の重要性について認識した。その一方で学生自らが他科目での学びに活かせる学修内容を提供する難しさも感じている。今後も他科目と連携し学修内容の精査・向上に努めたい。ご支援ご協力をいただければ幸いである。

【五十嵐学校長】

今後とも当校として支援・協力を行う。

【田原副学校長】

4の(2)報告に関する質疑応答、意見交換をお願いする。

【黒木委員】

1、2年生のself-learning-dayは画期的な取り組みと思う。

ただ、3年生の娘を見ているとこれまでも手一杯に見えた。他の専門学校では3年課程で納まらないから4年課程にしようとするところもあると聞く。余裕はあるのか。

【島田委員】

新カリキュラムを構築する際、学生が「忙しい」と感じている部分に余裕を持たせるようにした。横断領域科目で学習内容のダブりをなくした。そして時間割の空きコマを作っていき、金曜日に集めた。課題を確認し修正しながら、今後も取り組む。

今日は金曜日だが、2年生は国家試験課題に取り組むため大勢登校していた。皆で協力しながら楽しく学んでいた。

【五十嵐学校長】

旧カリキュラムの3,150時間から新カリキュラムの2,730時間に見直したことにより、日本一少ない時間数のカリキュラムとなっている。他校から何故可能なのか聞かれることも多くある。この見直しは、学生に、時間を決めて机に座らせ教えることを良しとせず、学生が必要な学習を自ら計画することが意図である。他校より夏休み、冬休みが短くなっていることもない。

【風間委員】

2,730時間のカリキュラムは、学生には公表されているのか。

【丸田委員】

公表されている。ただし全国一少ない時間数であることは初めて知り、驚いた。

【島田学科長】

毎年度、教員の担当科目を替えている。他の看護学校ではあまりやっていないと思う。新たな科目に取り組む教員は勉強もしなければならず大変であるが、横断科目の連携が取れるようになった。

【佐久間委員】

今後の看護師は病院勤務についても、訪問看護に出向いたり、また病棟看護に戻ったりと多角的な経験が必要になる。

【榊委員】

ダブルスクールの取り組み状況について、学生の反応を知りたい。また人数は学校の期待通りであったか。

【五十嵐学校長】

導入初年度、(現2年生の)6人が希望したときは、多いと感じた。3人程度かと思ってしたが、この1期生6人は非常に自立していた。自分たちで自主的に学ばないと単位が取れないことを自覚し積極的に取り組んでいた。

今年度、1年生は2期生となり15人が希望した。多すぎると思ったが、1期生が2期生のチューターとなり取り組んでいく。ダブルスクールを受講し今後、当校を卒業していく学生が円滑に看護学士を修得できるよう、実習病院と連携をとり取り組んでいく。

【榊委員】

ダブルスクール生は、将来、どのような看護師を目指しているのか。

【五十嵐学校長】

海外で活躍する看護師を目指す学生や修士課程を目指す学生がいる。

【榊委員】

最近、大学生でもレポート作成力の弱さが目立つ。テンプレレポートも多い。修士課程を目指すのであれば論理的文章を書く力が必要であるが、学生個々で力の差が激しい。放送大学では論文指導教員がいないことも心配である。

【五十嵐学校長】

論文指導が行える教員の限界から、当初ダブルスクール生は3人でいいと思っていた。現在1期生のチューター制を導入したところであり、文章力を見極めながら育てていきたい。

【榊委員】

学生たちには是非、自分の文章力を鍛えてほしい。

【風間委員】

昨年度、海外研修の取り組みを計画していると聞いたが、その後どうなったか。

【五十嵐学校長】

現在、研修実施を検討しているところである。コロナ前に計画していた予算をはるかにオーバーし、1人当たり約2倍で65万円となった。4泊6日のこの費用には海外での病院・福祉施設の見学費用も含んでおり、見学箇所もすでに決めてある。コーディネーター案内もつける。最終日はディズニーランドまでついており、20人集まれば航行可能である。

学生には65万円で参加するかどうか聞き取りしているところである。

【五十嵐学校長】

最後に申し上げる。これからも学生とともに、よりよい学校運営を目指したい。課題については教職員で共有しながら改善していく。

当校のホームページについてであるが、大幅リニューアルを6月第1週に実施する予定である。皆様にも是非ご覧いただきたい。

以上